

多彩な純米吟醸造りで
香り豊かな食中酒展開

代表取締役社長

いちよし まさひこ
一星 雅彦

福乃友酒造（大仙市）

1976年美郷町生まれ。東京農業大学醸造学科で学び、卒業後、家業の福乃友酒造へ入社。31歳で蔵元となり、2年前から杜氏兼務。



先代である父・邦彦さんによる突如の「蔵人宣言」によって、31歳の若さで1913年創業の家業の蔵元となった。

「東京の大学で法律を学び、造り酒屋に生まれながら酒造に携わらなかった父が『酒造りをしたいから』とつて蔵元を私に譲ったのです」と振り返る。

杜氏も兼務、父と醸す

2年前からは杜氏も兼務。洗米や麴造りを機械化するなど合理化を進め、今は邦彦さんともう1人のベテラン蔵人と3人で酒を醸している。

東京農業大学で醸造を学び卒業と同時に蔵に入り、蔵元就任後も麴屋を担当するなど全ての酒造工程に携わった。

メインの銘柄は共に純米吟醸原酒の「冬樹」と「秋田犬ラベル」という2つのシリーズ。長く愛飲されてきた「冬樹」は2019年の「ワイングラスでおいしい日本酒アワード」出品に合わせて酒質の大転換を図った。

最高金賞に輝く

掛米をそれまでの食用米から酒米（出羽燦々、五百万石、山田錦）に更。それぞれ個性を持たせてスタンダードな「冬樹」、「冬樹FFF（トリプルエフ）」、「冬樹プレミアム」の3商品を展開。「冬樹FFF」が22年の同アワードプレミアム純米部門で最高金賞に輝くなどシリーズは毎年、金賞を獲得している。「目指している

るのは香り高く、すっきりとしていてさまざまな料理と合う食中酒です」と強調する。

秋田犬をラベルに

「秋田犬ラベル」は春純吟、夏純吟、秋純吟という季節物など5商品のシリーズ。それぞれにかわいらしい秋田犬のイラストが描かれたラベルが特徴だ。

「商品化のきっかけはロシアのフィギュアスケーター・ザギトワ選手に秋田犬のマサルが贈られ、話題になったこと。女性をはじめ、より多くの人々に酒に親しんでもらうのが狙いです」という。

また「なぜ、大仙市で秋田犬？と聞かれることもありですが、マサルは大仙市生まれなのでその縁にありかまりました」とも。首都圏を中心に人気が高まっているそうだ。

量り売りも人気

軟水の雄物川の伏流水でじっくりと醸した酒は、酒質を保つため瓶火入れ1回、瓶貯蔵している。が、少量ながら温度管理ができるサーマル



福乃友



福乃友酒造
〒019-1701
大仙市神宮寺字本郷野82-6
TEL 0187-72-4141